

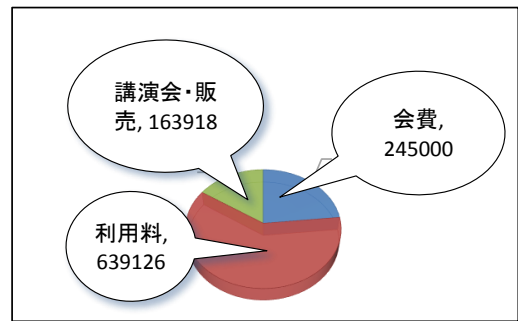


広島大正橋の河童

## 22万円を2法人へ寄付しました 寄付社会実現へ NPO法人アンガージュマン・よこすか NPO法人ジェントルハートプロジェクト ～ 子ども若者支援研究所の会員・利用者・支援者に御礼申し上げます ～

本研究soの目的は子ども若者の社会環境の改善です。その一つが、会員3,000円分(5,000円会費)と利用者相談料半額を積み立て活動団体へ寄付することです。第1回目は横須賀で不登校・ひきこもりの子ども若者支援に取り組むNPO法人アンガージュマン・よこすか、川崎を拠点に子どもを第一に考えいじめ問題の解決に取り組むNPO法人ジェントルハートプロジェクトの2法人へ寄付しました。子ども若者は出産子育て・福祉・教育・医療で分断さる社会があります。“子ども若者育成支援推進法”(2010年内閣府)が施行されたが、今だ根本的な改善がなく子ども若者と支援団体は四苦八苦している。今後の2法人の活躍を願い、本研究soの小さなエールを送りました。

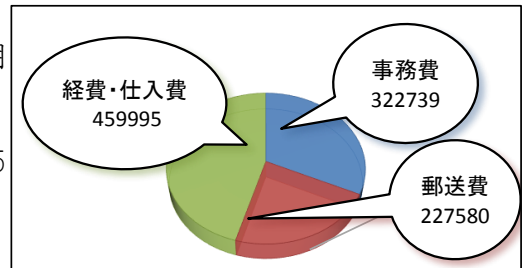
2013年度収入合計1,048,044円



### 2013年度研究所の実績報告

子ども若者の社会環境改善の応援団会議12回、講演会2回開催、いじめ防止叢書発行しました。収入は会費245,000円(会員45人)、相談利用料639,126円(内訳:相談者実数20人、訪問・年間契約含)、講演会・岡本氏書籍販売料163,918円、計1,048,044円。支出は事務費322,739円、郵送費227,580円、経費・仕入費459,995円、計1,010,314円。※右グラフ参照 残金37,730円を次年度に繰り越します。皆様のご支援に感謝し、寄付社会の実現へ向け会員加入ください。

2013年度支出合計1,010,314円



ごあいさつ「**子どもも大人ものびのび**」 子ども若者応援団団長 小幡沙央里さん



笑顔のステキな・・・  
小幡沙央里さん

今年度より子ども若者応援団団長を務めさせて頂くことになりました小幡沙央里です。平日は学習塾勤務。幼児～高校生までの子ども達に関わっています。休日は市内の児童養護施設で、幼児たちと戯れています。学校が嫌いな子、学校には行っているけど友達とのトラブルを抱えている子、親との揉め事が絶えない子・・・様々な子に出会います。日々子どもたちと接する中で痛感するのは、「話をきいてあげることの大切さ」、そして「自分自身でいられる場の提供」です。子どもたちは今日あったこと、最近ムカつくこと、部活の悩みなどなどたくさん話をしてくれます。アドバイスを求めている、というより話を聞いてもらえることで満足する様子。みんな吐き出してスッキリした顔で帰っていきます。こちらが強く働きかけるのではなく、子ども若者に寄り添い、本人たちのエネルギーを見守って(時には導く手助けをして)いくことが必要なのかな、と思います。まさに「応援」です。子ども若者応援団は子ども若者、そして支える大人も伸び伸びと過ごせる環境づくりをしていきたいと思っています。

### コラム風



消費税が8%に上がった。世の中の風が変わる期待、日本の民主主義への。実は最近お会いした英国バンガー大学名誉教授 北中寿さんの話で、ヨーロッパの教育・福祉・医療“無料”の洗礼を受けた。特に日本の教育費、塾・習い事を含めエンゲル係数化の道を辿っている。僕は60歳を超え医療費と伴走、高齢の母の福祉サービスに縁が深くなった。誤解を恐れずに言えば「教育・医療・福祉が無料になるなら税金が高くとも」と考える昨今。18世紀から始まるヨーロッパ市民社会は教育福祉医療費無料の実現、民主主義の力強さを実感できる。戦後70年“与えられた”民主主義を市民の手に、教育福祉医療の無料化が民主主義の風見鶏。風よ吹け呼べよ嵐!

# 連載 **すぐそこにあること** 5 「他者から見える自分」

新井秀浩33歳 某通信制大学在籍中

※2月号より「すぐそこにあること」のタイトルで連載執筆。通算7回

他の人は知らないけど僕はあちこちに相談の場所を持っている。具体的には言えないけれどそれぞれ一か月に一回通ってる。某NPO、就労支援センター、障がい者の施設、滝田さんの家。以前その就労支援センターで当事者の体験談を聞いた。僕の実感だがそこは比較的就労に近い人々が通ってるのかなーとの印象があったので、他の相談者がどういふ人なのか興味があった。僕が受けている相談はもちろん1対1なので他の相談者の顔が見えないし当然そこには守秘義務があるから横のつながりは全く分からない。

自分を知るためにはやっぱり誰かを通してしかわからないと思うのでその当事者の体験談よりそれを聞きに来ている人つまり相談者に興味があった。初めてだったので緊張したが司会進行が僕の相談担当の人だったのでそこに安心感があり意外と気楽に参加出来た。参加人数は十人ちょいだったと思う。当事者に興味がない僕にとって最初の自己紹介に興味があり、もちろん初参加だから僕の番になったらどーしようという不安も当然あった。まー自己紹介と言っても一言だからそれなりにこなせたし大方皆同じように緊張した面持ちで話していた。メインの当事者の話が終わり、質疑応答の時間になると誰も手を上げないから仕方なく質問してみた。その後2人くらい質問したが自分で書いていてなんだかと思うが質問内容に引けはとらないのかなーと思い、また最後の感想用紙にもささっと書いて1番に帰ったのを思い出す。

僕は何度もここで書いているように精神疾患だから当然精神科にも通う。そこでも同じように他の患者の観察がはじまり、あーあの人辛そうだなとか、え？あの人も病気のなーと思う人もいる。

このように横の比較と言っているのかかわからないけど同じひきこもりの当事者、同じ精神疾患を抱えた人達を見ていつも思うのは彼ら、彼女らに見える自信のなさ、不甲斐なさが僕にはそこがよく目立って見えてしまう。働いてない、家では親に頼りっぱなしそんな僕がこんなことを思うなんて不謹慎だと思うし、実際不甲斐ないのは僕自身であり、自信がないのは僕である。なんで、僕がそう思うのかと色々考えたが結論は自分の弱さが投影されて他人に見えるのだろう。おそろくけど。だから自分自身にある程度自信みたいなものが付けばそのような人を見てもおそろくは何も思わないのかかもしれない。

**それぞれの風コーナー** ○「ありがとうございました。面接はまずまずの出来でした。」とWさんは就職経験のないが専門技術を身に付けようと3度目の面接に挑戦をした。最近相談に来たXさんは、大学卒業後1年間ひきこもっていた。Yさんは大学進学後、通学せずにひきこもっている。10年ひきこもっているZさんは相談を始めた。「頭が悪い」「何をやっても面白くない」「絶望感」は共通するセリフ、自嘲的である。著名な文学者の太宰治や坂口安吾を彷彿させる。だから「コミュニケーションがへた」「人と関わるのが苦手だ」と。真面目に自分と向き合って自分を苦しめる、実に哲学的であり禅僧のようでもある。冒頭のWさん、どうして面接に臨んだのか、その答えが見えてきた…



4月20日(日) こども若者応援団会議  
横須賀市民活動サポートセンター

ひきこもりからの生きなおし(リロード通信ブックレット)The Shock of the Lighting(雷事件 Vol4)岡本圭太著  
**「僕はすでに強烈で暴風雨的な不安の渦の中に放り込まれていた。」**



Vol3: ひきこもりから働くということ(右)  
Vol4: ひきこもり時給2000円(左)

ゴッホマツコトスフーノン相談員岡本圭太さんから、リロード通信(NPO紙)に執筆中。そしてブックレット第4巻が3月末に出版された。お読みの方には再読を、未読の方にはお勧めしたいです。この巻には勝手にタイトルをつければ「携帯電話」「ひきこもり時給2000円説」「初仕事・青少年センター顛末」「不登校」「仕事とは」「予防講演」「雷事件」が綴られている。何度読み返しても、圭太さんの人柄と人生観が、若者のリアルな“語り部”の第一人者として僕の中に存在する。特に雷事件は現代若者が共有できるShockを解説している。今少し紹介しよう。「それはもはや『不安』などという生易しい種類のものではなく、まるで自分の世界の底が抜け落ち、一瞬方向を喪失したような…もっと暴力的で理不尽極まりない恐怖感だった。」と語る。本研究所で全巻販売中、1冊500円(送料無料で)

|   |       |        |       |
|---|-------|--------|-------|
| 相談は右の日程でご連絡ください。時間は10時～16時でお願いします。訪問は日程調整します、往復の時間も必要です、ご相談ください(土曜日にも訪問は受け付けたいと思います)。応援団会議は横須賀市市民活動センター午後2時～4時です。ご参加を |       |        |       |
| 5月の開所日程(駐車場あります)  |       |        |       |
| 1日(木)   | 相談    | 15日(木) | 相談    |
| 5日(月)   | 休業 祝日 | 22日(木) | 相談    |
| 8日(木)   | 相談    | 25日(日) | 応援団会議 |
| 12日(月)  | 相談    | 26日(月) | 相談    |